

教科 科目名	地理歴史科	単位数(週あたりの授業時数)		3 単位
	世界史探究	履修学年(類型)	2 学年 普通科	
教科書名(出版社名)		詳説 世界史(山川出版社)		

●学習到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。

●学習計画

学期	月	単元名	学習内容
1	4月	・世界史へのまなざし ・第1章 文明の成立と古代文明の特質 ・第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	・人類の進化について理解するとともに、自然環境が進化にどのような影響を与えたのかを考察する。 ・日常にある「モノ」や「できごと」を通して、自らと世界史のつながりについて考察する。 ・自然環境の変化と農耕・牧畜の開始との関係について考察し、文明誕生の基礎について理解する。
	5月	・第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 ・第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 ・第4章 西アジアと地中海周辺の世界形成	・遊牧国家の動きと魏晋南北朝の動乱の関係、魏晋南北朝時代の中国の情勢が、朝鮮・日本に与えた影響について理解する。 ・唐の勢力圏の拡大、制度や文化が近隣諸国にあつた影響について理解する。 ・仏教やジャイナ教などの新たな宗教に共通する点やインド諸王朝における宗教や文化の展開を理解する。 ・東南アジア・南アジア・中国との関係を多角的に考察する。 ・アケメネス朝が広大な領域に中央集権の支配を築いた背景や要因を理解する。 ・ポリスの特徴および生活について、オリエントの都市国家と比較しながら理解する。 ・ローマの共和政の特徴について、ギリシアの民主政と比較し、多面的に考察する。
	6月	・第4章 西アジアと地中海周辺の世界形成 ・第5章 イスラーム世界の成立とヨーロッパ世界の形成 ・第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ・第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	・キリスト教の成立の経緯を理解している。 ・イスラーム諸王朝の領域的な広がりとその支配の特徴を理解する。 ・イスラーム文化の成立の経緯を理解し、その特徴を多角的に考察する。 ・イスラーム政権の多極化が社会に与えた影響を多面的に考察する。 ・西ヨーロッパ世界の成立の経緯と封建社会の仕組みについて理解する。 ・13世紀に行われていた交易に関する資料などを読み取り、交易の特徴を理解する。 ・イスラーム化が世界各地にもたらした影響について理解する。 ・トルコ人の進出が西アジアにもたらした変化について理解する。 ・中世西ヨーロッパにおいてローマ＝カトリック教会が普遍的な権威を持つに至った背景を理解する。 ・ビザンツ帝国の衰退の要因を多角的に考察する。
	7月	・第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 ・第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 ・第9章 大交易・大交流の時代	・封建社会が解体に向かった背景を多面的に考察する。 ・中世西ヨーロッパにおいてキリスト教が果たした文化的役割を理解する。 ・10世紀前半に東アジアで政権交代が相次いだ背景や、そこで成立した諸国の共通点を理解する。 ・モンゴル帝国が成立した背景を多面的に考察する。 ・モンゴル帝国解体後のアジア各地の状況について理解する。
	8月		
2	9月	・第10章 アジアの諸帝国の繁栄 ・第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	・オスマン帝国やムガル帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ・サファビー朝の支配がイラン社会に与えた影響を多角的に考察する。 ・清代における周辺諸国と中国との関係について、明代と比較したうえで多面的に考察する。 ・ルネサンスを支えた精神の特徴を理解し、後世に与えた影響を多角的に考察する。 ・今までの教会改革と16世紀の宗教改革の違いを多面的に考察する。 ・主権国家体制の成立の経緯を多角的に考察する。 ・17世紀における西ヨーロッパ各国の国内の状況を理解するとともに、経済的な覇権獲得の経緯について、国際的な状況もふまえて理解する。 ・ロシアが主権国家体制に参入していった経緯を理解する。
	10月	・第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 ・第12章 産業革命と環大西洋革命 ・第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	・メディアが人々の生活や社会に及ぼした影響を考察する。 ・イギリス産業革命が世界経済や社会に与えた影響を多面的に考察する。 ・独立直後と今日のアメリカ合衆国を比較し、共通点と相違点を理解する。 ・革命中のフランス国家体制の変遷や革命が諸外国に与えた影響を理解する。 ・中南米諸国の独立運動とヨーロッパ情勢との関係を多面的に考察する。 ・ウィーン会議がどのような国際秩序を目指していたかを理解するとともにウィーン体制を動揺させた要因を多面的に考察する。

2	11月	<ul style="list-style-type: none"> 第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 第14章 アジア諸地域の動揺 	<ul style="list-style-type: none"> クリミア戦争におけるロシア・フランス・イギリスの思惑を理解するとともに、19世紀後半の三国の諸改革を理解する。 領土拡大がアメリカ社会に与えた影響を多面的に考察するとともに、南北戦争において北部が勝利した要因を理解する。 国民文化と国民国家の形成とその関係を多面的に考察する。 オスマン帝国の同様の要因を多角的に考察する。 ロシアとイギリスの競合関係が西アジアに与えた影響を多面的に考察する。 ヨーロッパ各国の東インド会社が南アジアでおこなった活動を理解する。 東南アジアの植民地化の経緯を理解する。 清朝の危機の要因を多角的に考察する。
	12月	<ul style="list-style-type: none"> 第14章 アジア諸地域の動揺 第15章 帝国主義とアジアの民族運動 第16章 第一次世界大戦と世界の変容 	<ul style="list-style-type: none"> 帝国主義時代に各列強が抱えていた国内事情とその課題を理解する。 アフリカや太平洋地域の植民地化の経緯を理解する。 日清戦争・日露戦争が中国やアジア各地に与えた影響を多角的に考察する。 歴史上初めての世界大戦が勃発した原因を多面的に考察する。
3	1月	<ul style="list-style-type: none"> 第16章 第一次世界大戦と世界の変容 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦後の新たな国際秩序が形成された経緯を理解する。 第一次世界大戦が東アジアの政治・経済・文化に与えた影響を多面的に考察する。 世界恐慌が起こった背景やその影響を多角的に考察するとともに、ニューディール政策、ブロック経済が世界に与えた影響を理解する。 開戦直前の各国のナチス=ドイツへの対応を多角的に考察する。 ヨーロッパでの第二次世界大戦の特徴を多角的に考察する。
	2月	<ul style="list-style-type: none"> 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界 	<ul style="list-style-type: none"> 戦後の国際秩序がいかに形成されたかを理解する。 冷戦開始および東西ヨーロッパ分断の経緯を理解する。 朝鮮戦争が東アジアの国際情勢に与えた影響を多面的に考察し、理解する。 冷戦の進展がアメリカ社会に与えた影響、スターリンの死後のソ連と東欧における変化を多角的に考察する。 自立化を追求するアジア・アフリカの新興諸国がとった行動を理解する。 国際情勢との関係をふまえたうえで、米ソの代理戦争としてのベトナム戦争の性格を理解する。 経済成長にともなう先進諸国の政策・社会の変化を多面的に考察する。 現代の中東問題の要因や経緯を理解するとともに、オイル=ショックが各国の社会と経済に与えた影響を多角的に考察する。
	3月	<ul style="list-style-type: none"> 第19章 冷戦の終結と今日の世界 	<ul style="list-style-type: none"> 1970年代後半から80年代前半において米ソが追求した対外政策の内容を理解する。 ソ連での改革、東西対立の緩和が東欧革命や東アジア・アフリカなど諸地域にもたらした影響を理解する。 冷戦終結後の世界が抱える課題を多面的・多角的に考察する。

●観点別評価

3観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解できる。また諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、比較互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察できる。	歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとする態度がみられる
B	諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解し、また資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能をおおむね身につけている。	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、比較互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的におおむね考察できる。	歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を追究、解決しようとする態度がおおむねみられる
C	諸課題の形成に関わる近現代の歴史の理解に乏しい。また資料から様々な情報を調べまとめる技能を身につけることが難しい。	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察することが難しい。	歴史の変化に関わる諸事象について、課題を追究、解決しようとする態度を見てとれない。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査によって出題範囲における知識と技能の習得の状況、思考・判断・表現を評価する。 ○ 課題追究学習の際のレポートを評価のための資料とする。 ○ 学習活動の様子や発表、討論、授業プリントの記述などの内容を評価のための資料とする。 ○ 単元ごとに行う自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とする。 		
評価の重み	$\alpha=0.4$	$\beta=0.4$	$\gamma=0.2$

● 観点別評価

3観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-----	-------	----------	---------------

A	諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解できる。また諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、比較互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察できる。	歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとする態度がみられる
B	諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解し、また資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能をおおむね身につけている。	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、比較互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的におおむね考察できる。	歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を追究、解決しようとする態度がおおむねみられる
C	諸課題の形成に関わる近現代の歴史の理解に乏しい。また資料から様々な情報を調べまとめる技能を身につけることが難しい。	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察することが難しい。	歴史の変化に関わる諸事象について、課題を追究、解決しようとする態度を見てとれない。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査によって出題範囲における知識と技能の習得の状況、思考・判断・表現を評価する。 ○ 課題追究学習の際のレポートを評価のための資料とする。 ○ 学習活動の様子や発表、討論、授業プリントの記述などの内容を評価のための資料とする。 ○ 単元ごとに行う自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とする。 		
評価の重み	$\alpha=0.4$	$\beta=0.4$	$\gamma=0.2$